

第2学年 学級活動(1) 指導案

日付 令和2年7月15日(水)
対象 第2学年2組 26名
学校名 立川市立上砂川小学校
授業者

これからの社会を生き抜く 資質・能力の育成
～言語能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの推進～

1 議題

「みんなが仲良くなれる遊びをしよう」 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。休み時間になると元気よく外へ飛び出し、仲良く遊ぶ姿が多くみられる。交友関係は男女の仲が良く、男女の垣根を越えて仲良く遊ぶ姿が見られる。

学級活動については、担任が司会グループを行い、遊びを決める話し合い活動を行っている。また、学級会オリエンテーションを行い、学級会の進め方や話し合いの約束などについて共通理解を図った。児童は、みんなで協力して実践する楽しさを味わい、学級会の進め方も少しずつ身に付けてきた。しかし、学級会の際に友達の意見が最後まで聞けず口を挟んでしまったり、仲良しの友達の意見に流されてしまったりするなど、相手を思いやる気持ちが欠けている児童や、何事も他人任せで、自分たちで計画的に活動を進めていこうとする意識が高まっていない児童もいる。

(2) 議題設定の理由

これまでの学級活動(1)では、よりよい学校生活を送るために、みんなでできる遊びを出し合い、くらべ合い、合意形成を図ってきた。今回の議題では、一斉登校後約1か月たった今、議題「みんなが仲良くなれる遊びをしよう」を話し合うことを通して、自分たちの力でよりよい学級生活をつくっていこうとする自治的能力を育てていきたい。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って、合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

4 学級活動の実態

第○回	月日	議題及び、題材
1	6月15日	まい日おしごとをしよう
2	6月15日	みんなで遊んでなかよくなるろう
3	6月19日	ロンドばしをしよう
4	6月29日	学びゅう目ひょうをきめよう
5	7月3日	ゲーム集会をしよう

5 活動の実際

(1) 事前の活動

日時	司会グループの活動	学級全員の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿
7月13日(月) 朝の会	・議題の案を出し合い、決める。		・現在の自分たちに必要感のある議題なのか、考えられるようにする。	
7月13日(月) 中休み	・提案者と提案理由について練り上げ、具体的な言葉にする。		・提案者の思いを生かせるようにする。	◎よりよい学級生活、学級集団を目指して、提案理由を練り上げている。 (主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度)【観察】
7月13日(月) 昼休み	・司会グループの役割を決め、前回の振り返りを確認する。話し合うことを決める。		・前回の話合いの経験を生かせるようにする。 ・提案理由を達成しうる「話し合うこと」になるよう、一緒に考える。	
7月13日(月) 帰りの会	・提案理由や話し合うことを知り、学級会や学級集会への意欲を高める。		・提案者の思いが全学級に伝わるように支援する。	
7月15日(水) 中休み	・司会進行のシュミレーションを行う。		・実際の学級会を想起し、心配をなくして本番に臨めるようにする。	◎これまでの学級会の経験を生かして、話合いの流れを理解できている。 (よりよい生活を築くための知識・技能)【観察】
7月15日(水) 昼休み	・黒板掲示の準備をする。			

(2) 本時の展開

【ねらい】学級生活をより豊かなものにするため、自分の気持ちを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら、みんなと仲良くなれる遊びを考えることができるようにする。

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿
1 はじめのことば 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認	・提案者の思いや願い、学級全員の問題であることを確認する。	
5 決まっていることの確認	・日時や場所については、あらかじめ教師の方で決めておく。	
6 話し合い 話し合うこと① 「何をするか」 話し合うこと② 「工夫」	・黒板に「出し合う」「くらべ合う」「きめる」を貼り、話し合いの見通しを児童がもてるようにする。 ・合意形成を図るための話し合いの手法を掲示していつでも確認できるようにする。 ・話し合うこと①は、「くらべ合う」段階から進められるよう、事前に短冊を黒板に提示しておき、出されている意見を全員で、共通理解できるようにしておく。 ・司会が進行に困ったときは、方向性を示唆する。児童の合意形成を方向付けるような助言はしない。 ・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、必要に応じて助言する。 ・自分の意見に固執せず、折り合いをつけることも必要であることについて助言する。	◎仲が深まるような活動になるように友達の意見を参考にしながら、折衷案を考えたり、みんなの共感を得られるような改善案を出したりしている。 (思考・判断・表現) 【観察、発言】
7 決まったことの発表		
8 振り返り		
9 先生の話	・終末の助言 ①合意形成したことについての価値づけや、個人や集団への称賛 ②今後の課題 ③司会グループへのねぎらい ④今後の見通しや実践に向けての、意欲付け等について簡潔に述べ、特に、前回の話し合いと比べての変容について、称賛する。	
10 終わりの言葉		

(3) 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿
7月16日(木) 朝の会	・決まったことを学級活動コーナーに掲示する。		◎合意形成したことをもとにみんなで協力し、進んで活動の準備に取り組んでいる。 (主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度)【観察】
7月16日(木)～ 7月22日(水)	・役割分担が決まっていなければ、係の役割分担をする。 ・係ごとに準備をする。 ・帰りの会などで、係ごとに適宜経過報告をする。	・係は複数名で担当して協力して活動できるようにし、活動の状況を途中で報告し合いながら、活動意欲の継続かを図る。 ・協力したり、工夫したりしている児童を称賛する。	◎活動の目的を考えめあてを意識しながら友達と協力して実践している。 (思考・判断・表現) 【観察・発言】
7月22日(水) 5校時	・活動を行い、振り返りをする。	・自分の態度を振り返るとともに、友達の良いところについても、認められるように、助言する。	

授業観察のポイント (言語能力)

- ① 自分の考えに対する理由を「～からです。」という話型で話す。
- ② 自分の考えの理由を、提案理由に沿って考える。
- ③ 前回の教師の助言を振り返り、本時の学級会に生かす。